

【関東 東京都多摩地域】

多摩地域在住者のワークライフバランスに寄与する
N P O等の活動に対するコーディネート支援事業

平成25年2月26日

株式会社タウンキッチン

1. モデル事業実施地域の課題

【実施地域の概要】

東京市町村自治調査会「多摩地域データブック 2011年版」

- 多摩地域（26市3町1村）の基礎的な統計データ
 - ・人口：4,076,746人 世帯：1,854,754世帯
 - ・面積：1159.89km² 人口密度：3,515人/km²
 - ・高齢化率：20.71%
(稲城市：16.89%～檜原村：42.27%)
 - ・事業所数：138,017所 従業者数：1,604,419人
- 多摩地域のワーク（在住地域外への通勤）に関するデータ
 - ・労働力人口のうち就業者数：1,888,766人（注）2005年
 - ・多摩地域の他市町村への通勤者流出人口：469,619人（注）2005年
 - ・区部への通勤者流出人口：515,630人（注）2005年
- 多摩地域のライフ（子育てに焦点）に関するデータ
 - ・年少人口（0～14歳）：534,832人
 - ・年少人口比率：13.12%
(奥多摩町：6.69%～稲城市：15.70%)
 - ・認可保育所 施設：614所
 - ・定員：63,121人 入所児童：64,021人
 - ・保育所入所待機児童数：3,349人
- 多摩地域のNPO法人に関するデータ
 - ・NPO法人数：1,522法人
 - ・分野別（重複含む）
子どもの健全育成：662 男女共同参画：165

【実施地域の課題】

「多摩地域の子育て支援についての調査報告書」（2008年）

- 多摩地域は全国と比較して年少人口比率が高く、世帯構成における「夫婦と子ども（核家族）」世帯の比率も全国と比較して高い。すなわち、多摩地域は「夫婦二人による子育て」の課題先進地域である。
- 多摩地域の通勤者の動きは都内他地域への「流出超過」となっている。このことは「仕事（ワーク）の場」と「生活（ライフ）の場」の地理的分断を意味し、「稼ぎの場と子育ての場の分断」に連関する。
- 多摩地域の女性は区部と比較して就業率が低く、配偶者がいる割合が高い。全国と比較して30歳代に仕事から離れる人が多く、仕事への復帰の時期も遅い。30歳代後半からの女性有配偶者の就業率も低い。こうした統計から、「夫（男性）は他地域に稼ぎに行き、妻（女性）は地元で子育てをする」という性別役割分業の傾向があると言える。
- 以上から、対症療法として子育て支援や男女共同参画促進を行い、根治療法として職住近接＝地域の仕事の場づくりの実現が要される。



2. モデル事業概要

事業 1

東京にしがわ大学

ゼミナールの企画・設計・実施に関するノウハウ提供

タウンキッチン

ワークライフバランスの課題解決ゼミナールに関する実施計画策定の支援

NPO法人tadaima!

- ・ゼミナールの企画・設計・実施ノウハウの習得

次年度以降

地域での仕事づくりに寄与する別団体に同プログラムを適用

事業 2

多摩信用金庫
CESAくになち

ゼミナールの実施、地域での起業支援

タウンキッチン

ゼミナールの実施（地域での起業に向けた経営ノウハウ、人材育成等）

起業家（多摩地域の現役世代）・NPO法人tadaima!

- ・起業に向けたノウハウ
- ・事業計画の作成ノウハウの向上

次年度以降

企業や行政との協働事業として同様のプログラムを継続実施

事業 3

多摩信用金庫
CESAくになち

アクションプランの実行に向けたサポート（起業や行政との連携など）

タウンキッチン

地域の起業に向けたアクションプランの実行支援

起業家（多摩地域の現役世代）・NPO法人tadaima!

- ・連携先ネットワーク形成
- ・資金調達ノウハウ

次年度以降

企業と起業家との連携事業の成功事例づくり、継続的な起業支援

- ①子育て支援や男女共同参画促進
- ②地域の仕事の場づくり（職住近接）

3. 各事業概要及び成果

①人材育成に係るコーディネート事業

「担い手」（NPO法人tadaima!）を対象として、ワークライフバランスに関する講座の実施計画に対する助言・指導を行うことにより、担い手の人材育成を図る。

【事業の対象・内容】

NPO法人tadaima!の活動（子育て支援および男女共同参画社会の形成の促進を図る活動）を広めると同時に、地域の仕事の場づくりを行うためのゼミナール講座の計画を行う。多摩地域をフィールドとするコミュニティ大学である東京にしがわ大学は「多摩地域の現役世代への高い訴求力」と「講座設計ノウハウ」を備えており、NPO法人tadaima!と東京にしがわ大学が連携することにより、多摩地域の現役世代に対して広くアプローチすることを可能にする。

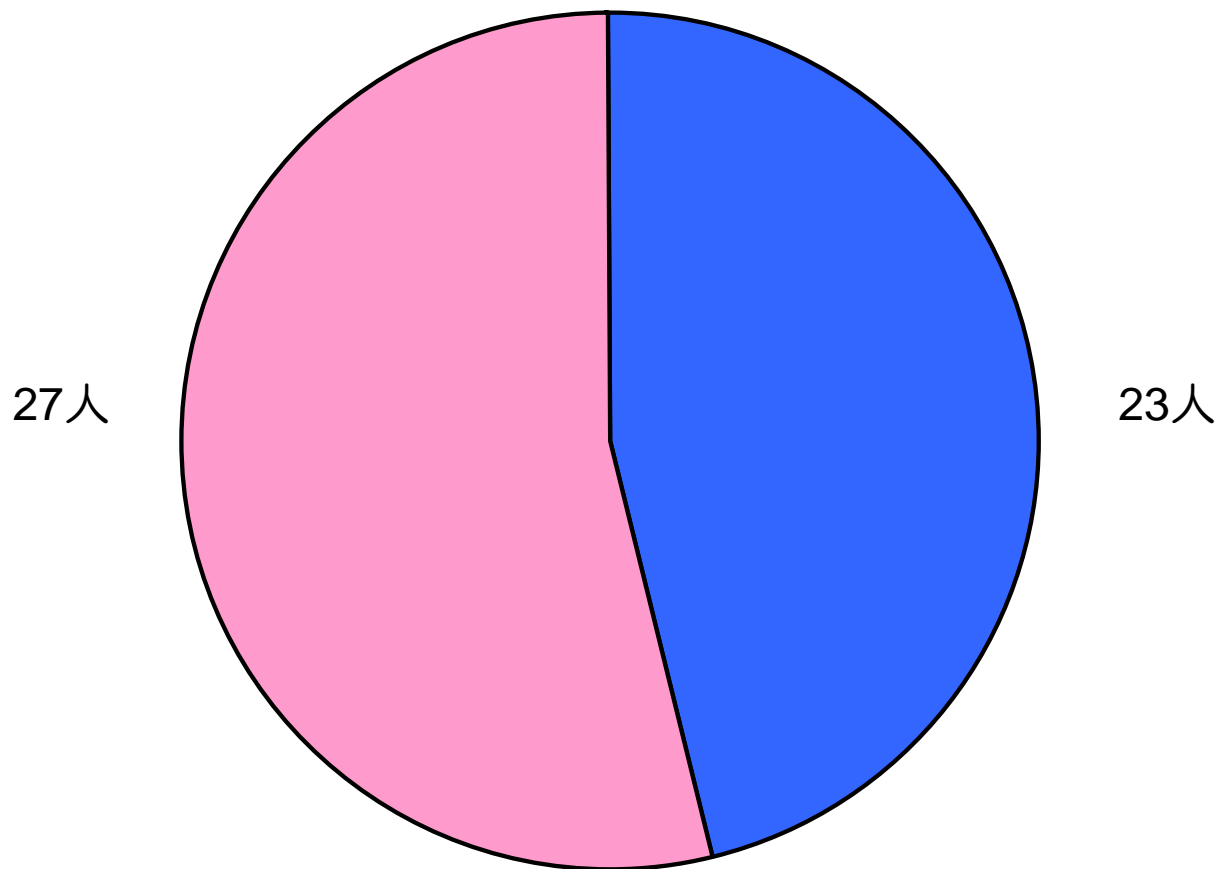
【期待効果】

子育て支援および男女共同参画社会の形成の促進を図るNPO法人tadaima!の多摩地域の現役世代に対するアプローチと経営スキルの向上。

【達成状況】

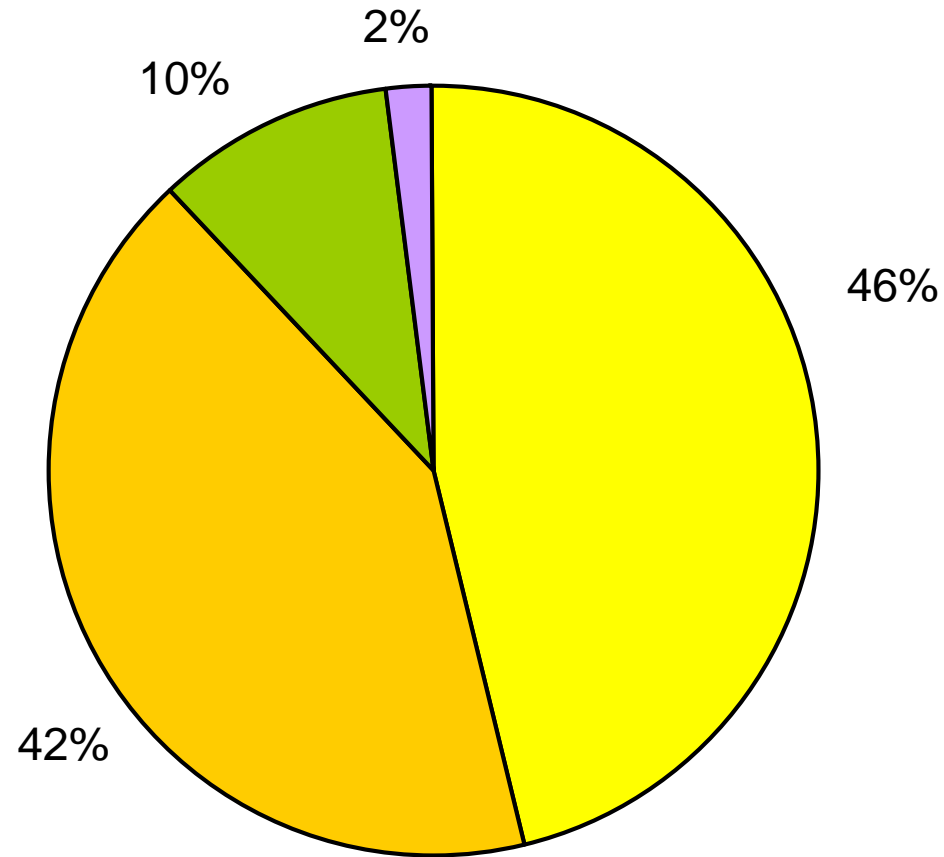
NPO法人tadaima!及び東京にしがわ大学との打ち合わせを重ね、ゼミナールのプログラムを構築。多摩地域の現役世代に対する募集告知を実施し、当初予定していた定員30名は4日で満席。最終的に参加者の20-30代の現役世代が約50名集まり、1泊2日のプログラムに参加した。プログラム終了後もプロボノとして一般ビジネスパーソンがNPO法人tadaima!の活動に関わっている。

参加者属性 性別



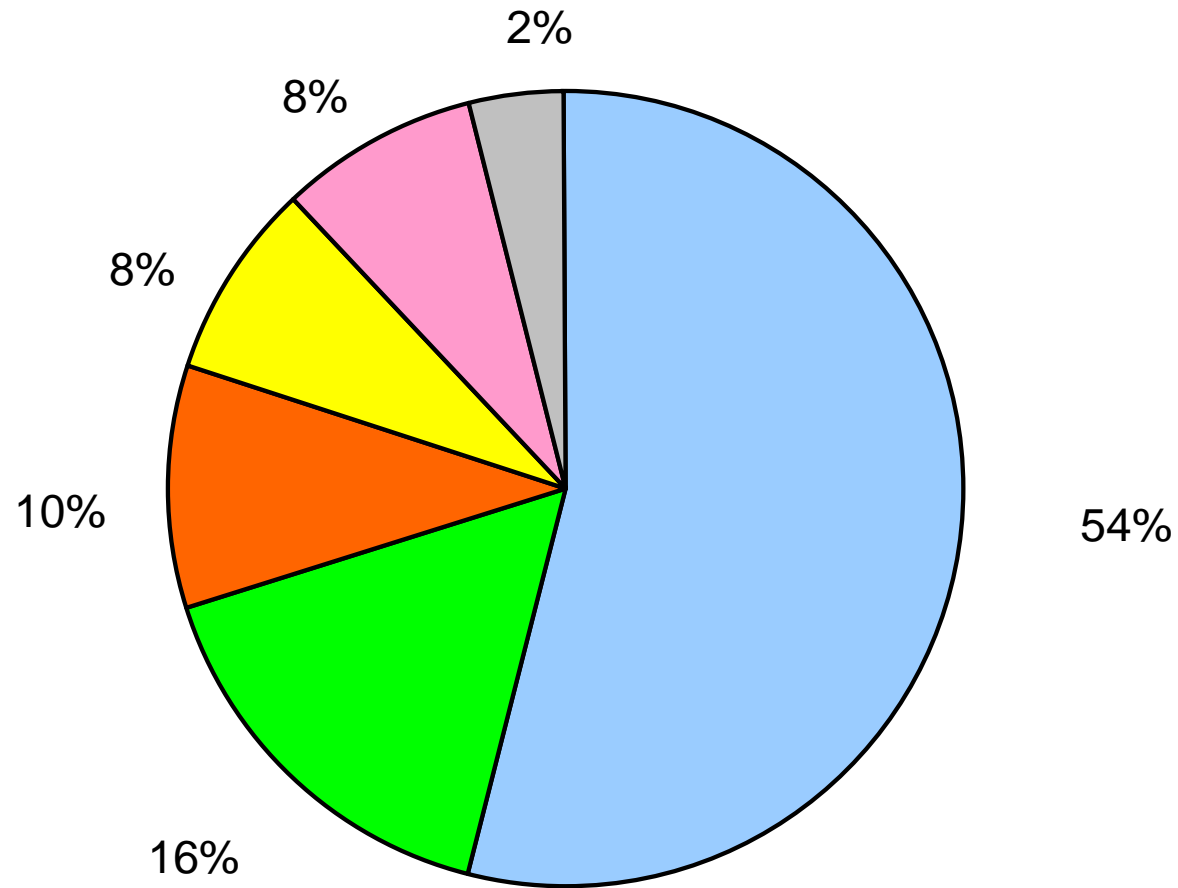
■ 男 ■ 女

参加者属性 年代



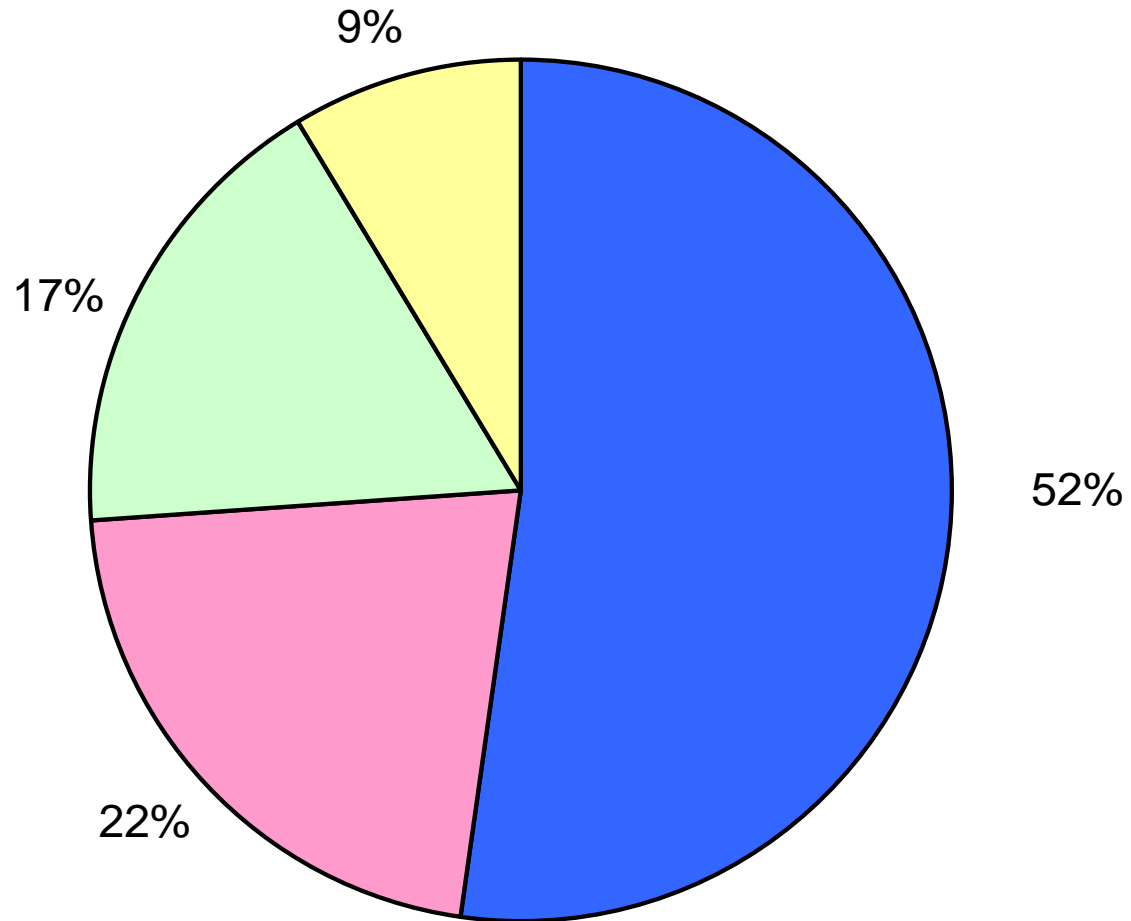
■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代以上

参加者属性 所属



□ 会社員 □ 自営業 □ 学生 □ 経営者・団体代表 □ その他 □ 無記入

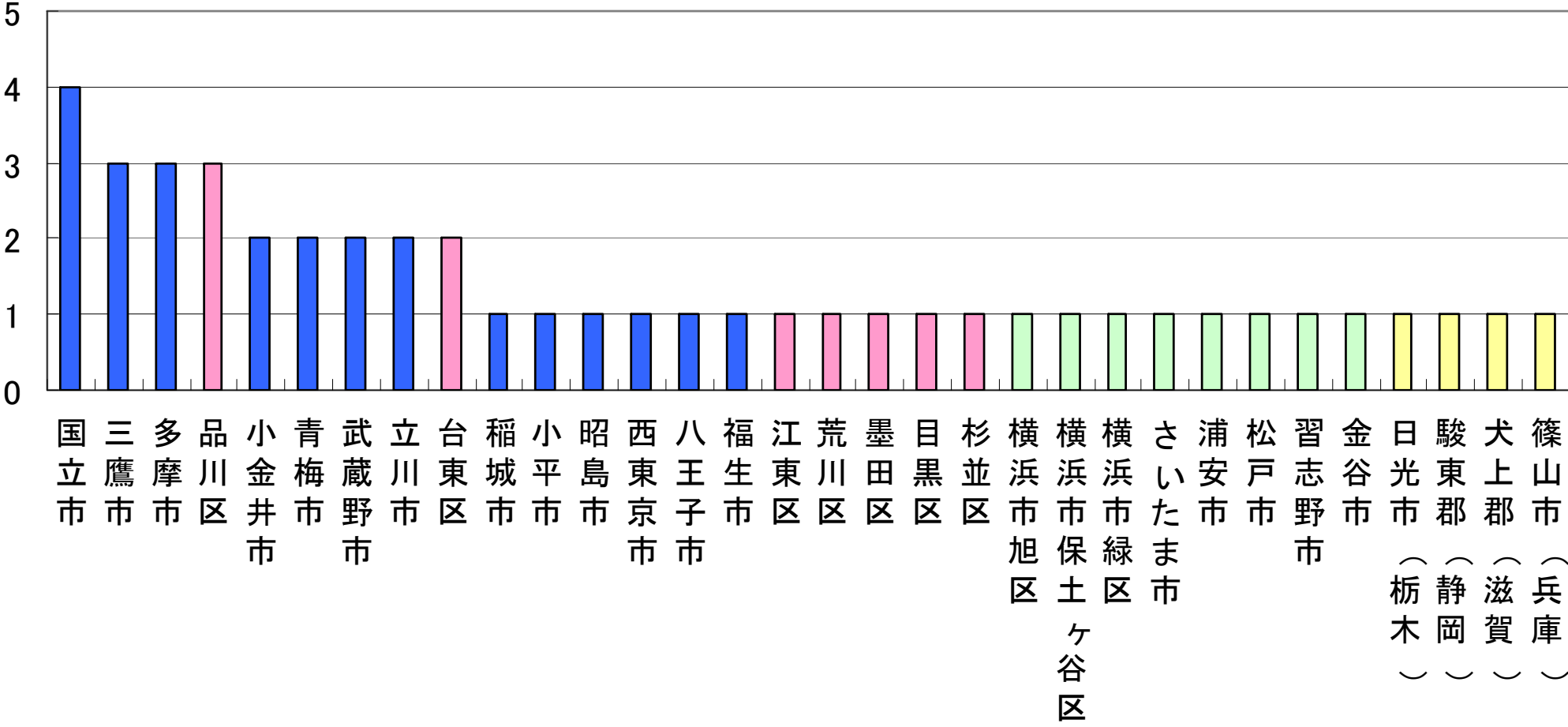
参加者属性 居住地



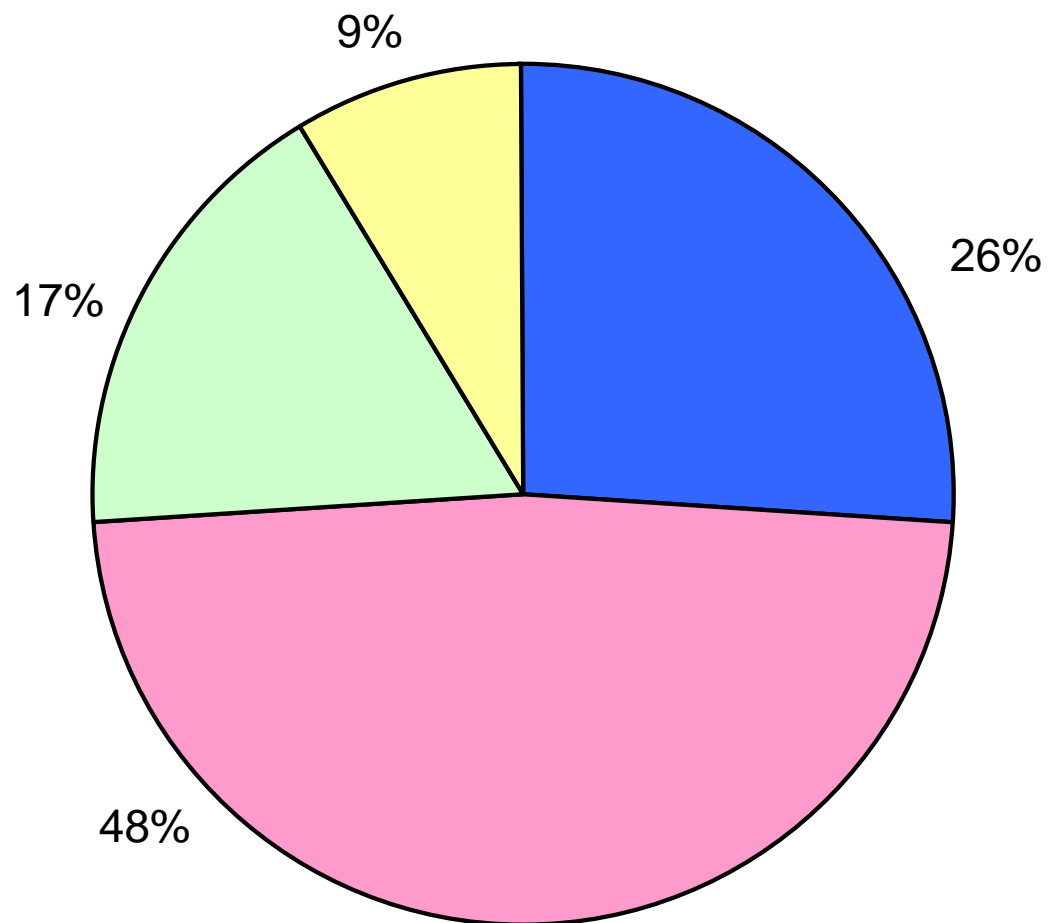
■ 多摩地域 ■ 23区 ■ 神奈川・埼玉・千葉 ■ その他

参加者属性 居住地

(人)



参加者属性 居住地⇔勤務地



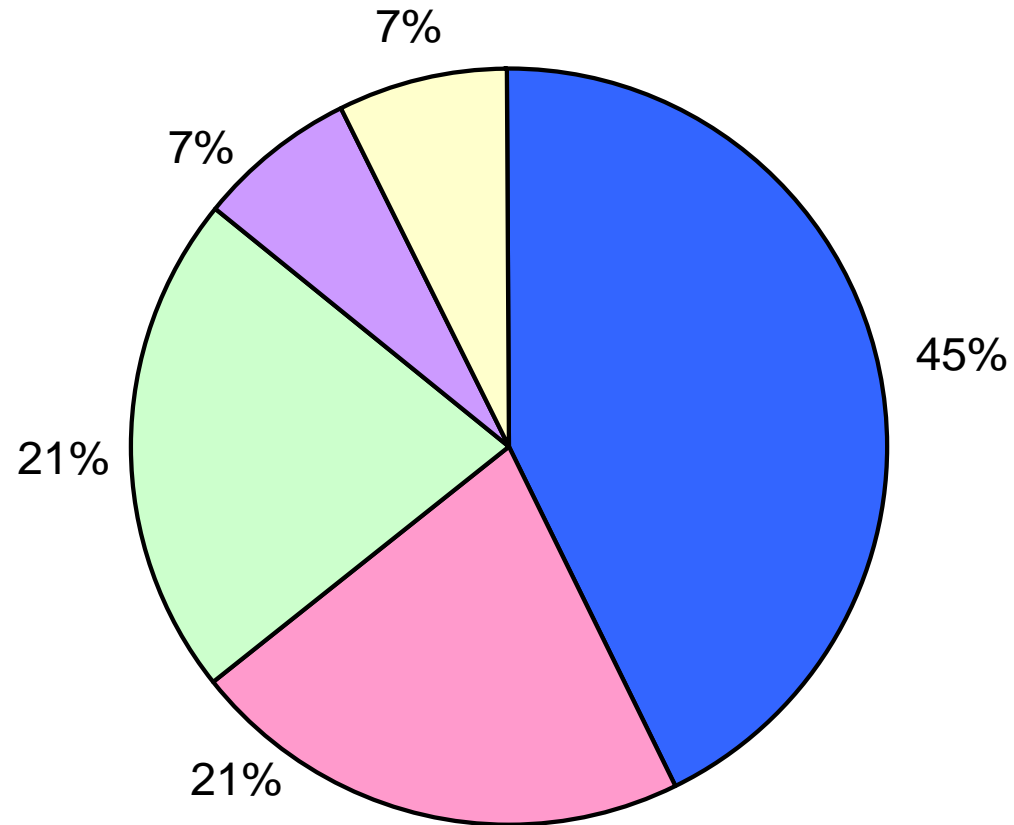
■ 郊外⇔都心

■ 郊外⇔郊外

■ 都心⇔都心

■ その他(主婦など)

参加者属性 参加動機



- 現在の仕事や新しい活動に活かしたい
- 会社員としての仕事に違和感・不満
- 「暮らし」と「しごと」というテーマへの興味・関心
- 就職を迎えるにあたっての不安
- 子育てとしごとの両立

3. 各事業概要及び成果

②起業に係るコーディネート事業

「担い手」（起業家（多摩地域の現役世代）及びNPO法人tadaima!）を対象に、（1）で計画した講座を活用して、地域での起業に向けたアクションプランの策定に関する助言・指導を行うことにより、「担い手」の経営スキルの向上を図る。

【事業の対象・内容】

「地域の仕事の場づくり」に主眼を置いたカリキュラムを設計。NPO法人tadaima!および多摩信用金庫、CESAくにたちをはじめ、「地域の仕事の場づくり」を実践している事業者をゲスト講師を招聘し、1月12日13時～1月13日16時まで1泊2日のプログラムを八王子にて開催。

プログラムは、地域のしごとを実践するゲストのトークを行った後、プロアクションカフェというワークショップ手法を用いて参加者の中からプロジェクトアイデアを選出。「この指とまれ」でチーム編成した後、プロジェクトアイデアのブラッシュアップを行い、プレゼンテーションを実施した。

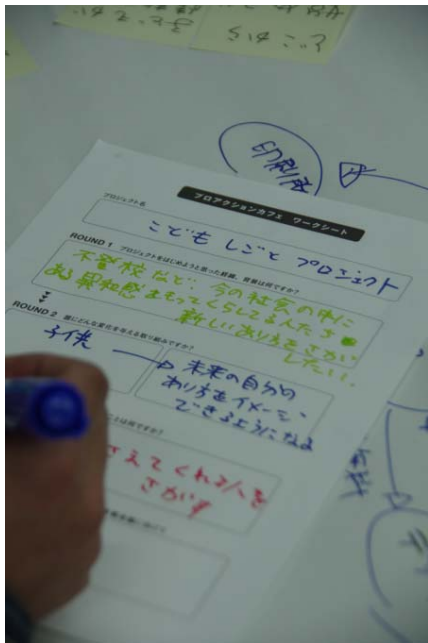
【期待効果】

アクションプランの作成支援や、実際に行動に移していくための仲間づくりなどをサポートすることで、地域での仕事づくりに向けて漠然としたアイデアを実際の活動へとつなげることに貢献。

【達成状況】

「地域の仕事の場づくり」に向けた15のプランを創出。テーマは「地域活性、子育て・家族・教育、コミュニティ、ライフスタイル、新しい仕事観・キャリア形成」など。その中で実際に起業に向けた取り組みがスタートしている。

プロアクションカフェ & オールナイト作戦会議



プレゼンテーション



参加者が感じる課題・潜在ニーズ

地域活性 4/15

- ・ 将来の親の介護に対する不安。
- ・ 田舎の集落の過疎化。
- ・ 実家と故郷を残したい。
- ・ 都会づかれ。退職して田舎に帰りたいという人が増えている。
- ・ 田舎暮らしへの憧れはあるが、仕事がない。
- ・ 手に職がない人がいかに田舎で仕事をつくるか。
- ・ Iターン、Uターンしても、現在の仕事を活かさない。
- ・ 事業の継承者不足。マッチングやコーディネート必要性。
- ・ 就農へのハードルが高い。

参加者が感じる課題、潜在ニーズ

子育て・家族・教育 4/15

- ・ 知り合いのお母さんたちの自己肯定感の低さに愕然とする。
- ・ 子供だけでなく、育てているお母さん側の改革ができていない。
- ・ 不登校の子ども。学校の勉強を含め、習う意味を見いだせない子どもたちがたくさんいる。
- ・ 社会とつながっている実感のない教育。
- ・ パパ抜きの旅行計画が密かに立てられていた。
- ・ 震災後、家族時間を増やす意識が高まったが（平日33分、休日74分）、先進国に比べるとまだまだ少ない。（実際、夜11時の電車で帰るパパ、ママが多数いる。）
- ・ パパが休みをとったところで何をしていいかわからない。気がつけば夕方。
- ・ 30代～40代の男性 5人に1人は週60時間労働という現実。
- ・ 育児中の女性が働きやすい社会を目指そうとしているが、男性の家事参画が進んでいない。

参加者が感じる課題、潜在ニーズ

地域コミュニティ 3/15

- ・団地に住む人同士の交流がない、特に異世代間。
- ・自分の得意なことを表現する場がない。
- ・おばあちゃん世代が持つ食の知恵や工夫が伝承されていない。
- ・2011年の自殺者数は年間3万513人、1日平均90人。（未遂は約10倍）
- ・自分の居場所がない。仲間がいない。助けてと言えない。

参加者が感じる課題、潜在ニーズ

ライフスタイル 2/15

- ・ 大企業で働いていて溜まる日々のストレスを、飲食で解消している。
- ・ おなかはいっぱいになるけれど、心が満たされない毎日。
- ・ 食べ物が命と切り離された存在となってしまうている。
- ・ 画一的、便利になりすぎた社会。
- ・ 暮らしの手触りが無い。ぬくもり、愛着、ていねいな暮らしが求められている。
- ・ 土地土地の知恵と文化が継承されていない。

参加者が感じる課題、潜在ニーズ

新しい仕事観・キャリア 2/15

- ・ 人事で採用面接をしていて、自分の心と言葉が一致していない人が多い。
- ・ 自己否定感を感じる。
- ・ 現在の子供の60%は今まだ名前のない職種につくと言われている。
- ・ 自分らしく働いているロールモデルが身近にない（情報を入手しにくい）。
- ・ パラレルキャリアが浸透していない。

(参考) 各プランの事業化レベル

事業成長
フェーズ

事業化
フェーズ

事業開発
フェーズ

<p>買い手と 使い手が つながる かご専門店 カゴアミドリ</p>	<p>おもちゃ手帳 木のおもちゃ チッタ</p>	<p>社会とつながる 子供向け 造形教室 エンガアート</p>	<p>事業継承 マッチング コーディネート NPO KANAYA</p>	<p>男の家事 モノづくり NPO tadaima!</p>	
<p>地場野菜の 料理教室& ケータリング</p>	<p>音楽でつながる おうちライブ</p>	<p>農業体験を 通じた 価値交換 連鎖システム</p>	<p>家族の わくわく カフェ</p>		
<p>実家を使った 民宿業</p>	<p>半農半Xの 共同体</p>	<p>小学生向け 考える トレーニング キャンプ</p>	<p>生産者と つながる ゲストハウス</p>	<p>働き方・生き方 ウェブ& ワークショップ</p>	<p>コトとコトを つなげる コミュニティ</p>

3. 各事業概要及び成果

③資金調達等に係るコーディネート事業

「担い手」（起業家（多摩地域の現役世代）及びNPO法人tadaima!）を対象に、（2）で策定したアクションプランの実践に向けた支援として、資金調達を含めた事業連携を意図したプラン発表会を開催することで、「担い手」の経営スキルの向上を図る。

【事業の対象・内容】

新たに地域の仕事の場づくりを目指す多摩地域の現役世代およびNPO法人tadaima!が検討した地域ニーズを解決するためのしごと（アクションプラン）を実現させるために、多様な地域主体（地域の企業やコミュニティビジネス事業者、行政や教育機関の関係者など）を招集したプラン発表・連携事業検討会を1月31日に開催。ゼミナールの報告会、起業家の事業プラン発表会を行い、さらに企業や行政との連携を模索するためのセッションを実施。地域の雇用を創出できるようなしごとづくりに向け多様なステイクホルダーと検討を行った。

【期待効果】

起業家の個人的な活動を超え、多様な地域主体との協働による「地域のしごとづくり」の実現を図る。

【達成状況】

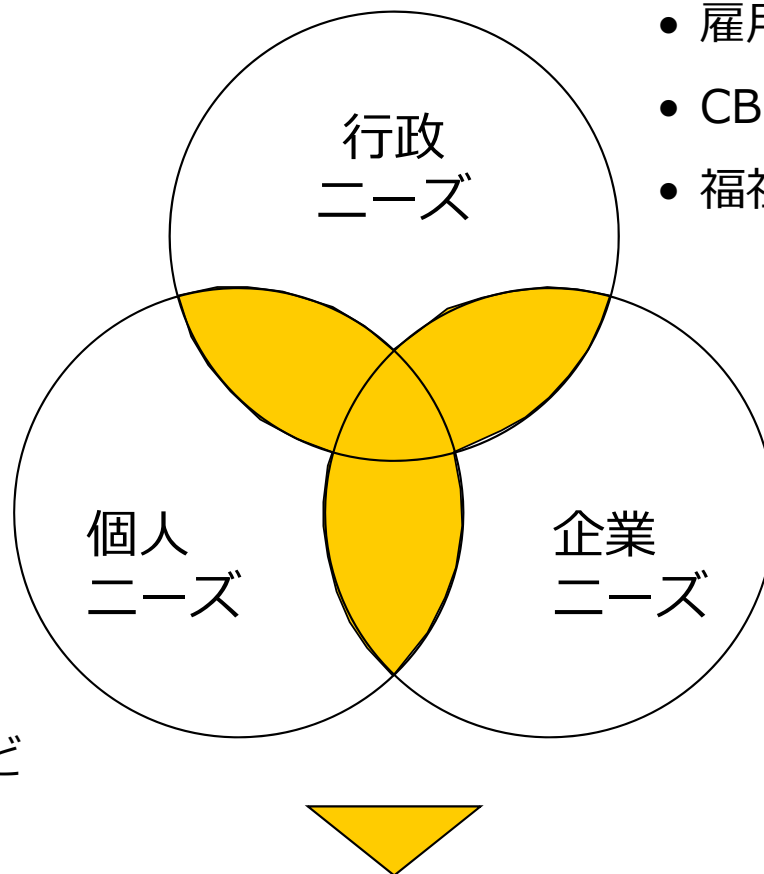
ゼミナールに参加した起業家に加え、地域の企業や行政、NPOなど総勢29名が参加。事業連携によるしごとづくりの効果や実施に向けた課題などを整理した。

現在、NPO法人tadaima!と地元の前掛け専門店とのコラボ商品を開発するなど事業連携に向けたコーディネートを継続して実施している。また、その他の事業プランについても、多摩信用金庫やCESAく にたちと連携しながら、起業講座やセミナーなどを通じて引き続き経営支援を実施している。

地域のしごとづくりの考え方

- 「暮らし」と「しごと」の物理的・精神的距離
- 仕事のストレス・精神的病い
- 就職難・リストラ
- 将来のキャリアへの不安
- 子育て・介護
- 日々の暮らしで感じる不自由・不便

など



- 地域経済の活性化
- 雇用対策
- CB・SBの起業促進
- 福祉の充実 など

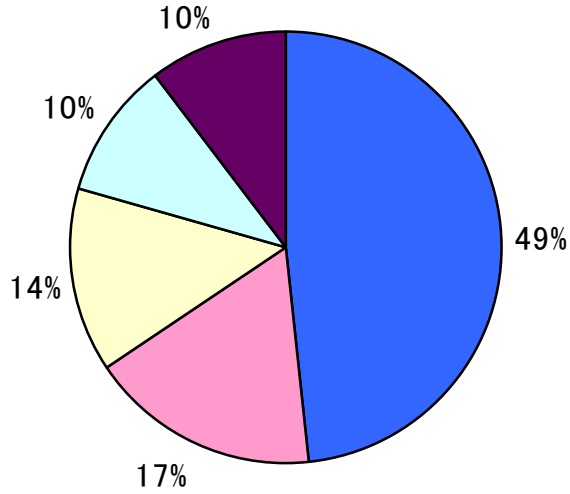
- 商品開発、営業
- 新たな事業機会、潜在ニーズの発掘
- 人材育成、モチベーション
- 保有資産、資源の有効活用
- 企業価値創造、CSR など

起業家、企業、行政の協働連携による地域のしごとづくり

(多様なステークホルダーが横串に取り組むテーマ設定)

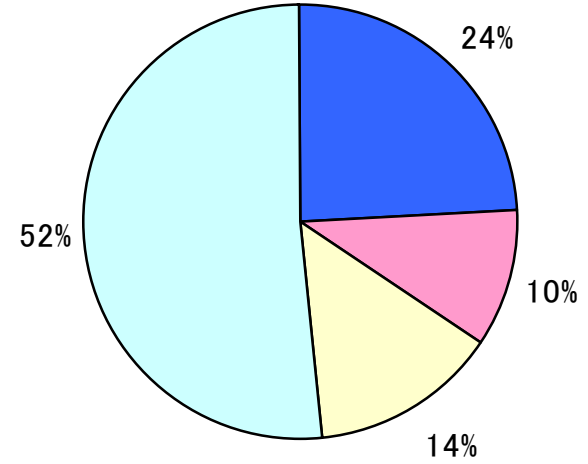
(参考) プラン発表会の参加者属性

団体属性



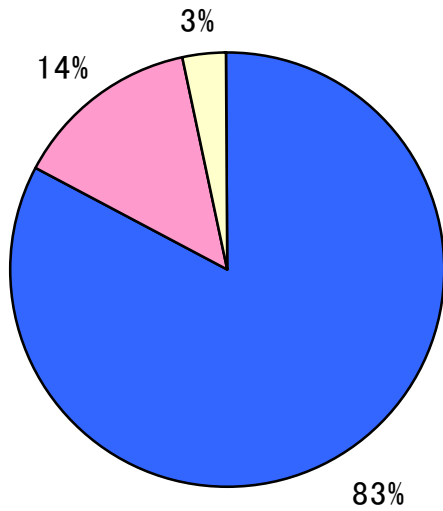
- 会社(株式・有限)
- NPO
- 信用金庫
- 行政
- 任意団体・個人

従業員規模



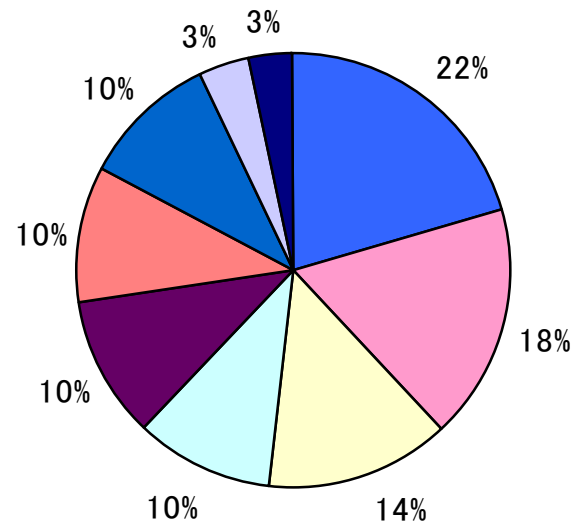
- 1~5名
- 6~20名
- 21名~100名
- 101名以上

主な活動エリア



- 多摩
- 都心
- 千葉

業種



- 運輸業
- サービス業
- 金融業
- 公務
- 不動産
- 製造業
- 中間支援
- 教育系
- 建設業

プラン発表会



連携検討セッション



企業・行政の連携ニーズ

【イノベーション、市場開拓】

- ・視点の広がり
- ・社内では得られない発想
- ・現場にちかい声やノウハウ
- ・試験的な取り組み

【人材育成】

- ・起業家精神の醸成
- ・固定観点の打破
- ・社員のモチベーション

【CSR】

- ・存在意義を見つめなおす機会
- ・企業イメージ、ブランディング

今後の課題

【コーディネート機能の強化】

- ・互いのニーズ、情報の共有
- ・コーディネート人材、翻訳、交通整理
- ・マッチングの場と機会

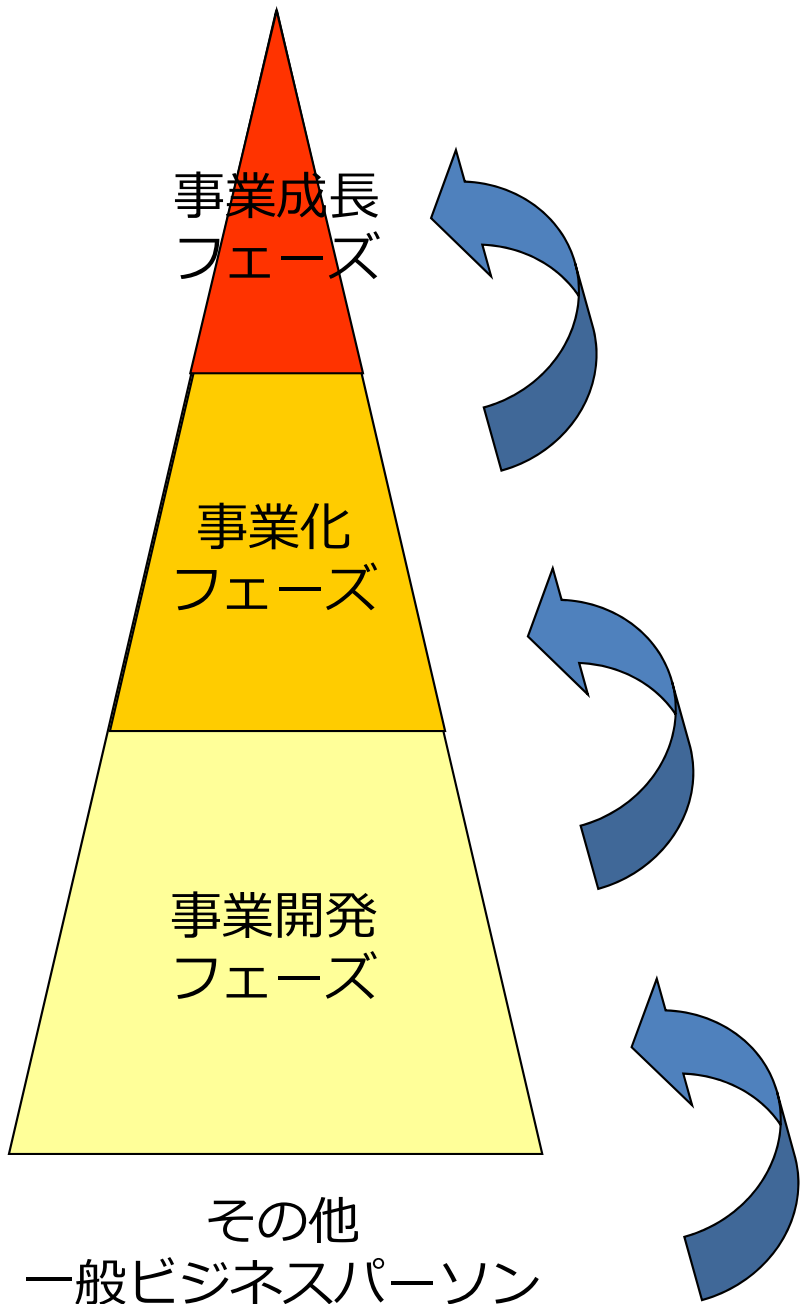
【組織内のオーソライズ】

- ・組織風土、変わりたくない人への対応
- ・互いの理解、多様性の受け入れ
- ・連携の評価方法、定量的なものさし
- ・はじめ方と終わり方
- ・責任所在、役割、リスクの分担
- ・焦点の絞り方、連携目的の明確化

4. 今後の課題・予定

今後のサポート

課題及び今後必要なサポート



- ・ 事業マーケットの拡大に向けた経営資源の拡大
- ・ 銀行融資、事業計画書作成支援
- ・ 企業や行政との連携、ネットワーク支援

- ・ モデルとなるプロトタイプの開発、検証
- ・ 実践するための機会の提供
- ・ 共に実践する仲間づくり

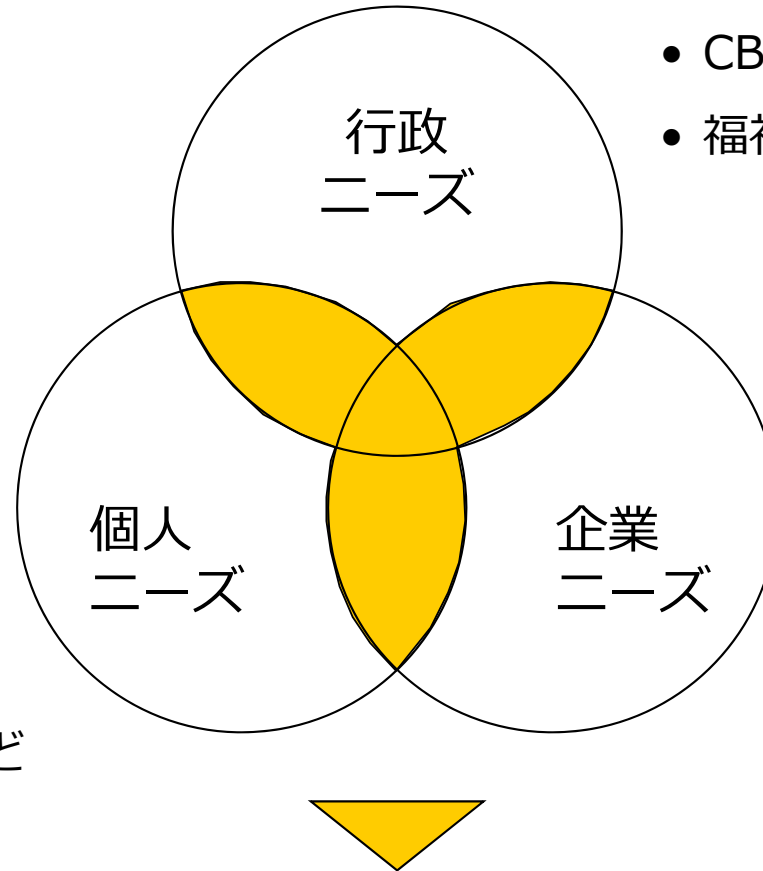
- ・ 地域での仕事づくりの情報収集
- ・ 実践者との交流
- ・ ワークライフバランスについて対話する機会

4. 今後の課題・予定

来年度以降の自立的な取り組みに向けて

- 「暮らし」と「しごと」の物理的・精神的距離
- 仕事のストレス・精神的病い
- 就職難・リストラ
- 将来のキャリアへの不安
- 子育て・介護
- 日々の暮らしで感じる不自由・不便

など



- 地域経済の活性化
- CB・SBの起業促進
- 福祉の充実 など

- 商品開発、営業
- 人材採用、人材育成
- 新たな事業機会、潜在ニーズの発掘
- 保有資産、資源の有効活用
- 企業価値創造、CSR など

しごとのテーマを絞り込んだプログラムの実施